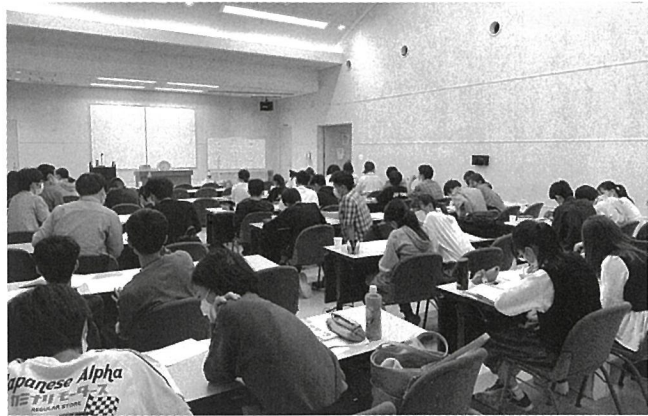


令和4年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞受賞

# どんな環境に生まれても学べる「居場所」を

## 大阪府門真市 KADOMA中学生勉強会



学習支援活動の様子

### 活動内容

経済的理由等で塾に通えないなど様々な課題を抱えている門真市内の中学生30名を対象に、居場所・学習支援事業（毎週水曜日および隔週土曜日※年間60回程度）を実施している。毎回20名以上の大学生ボランティアが参加し、ほぼマンツーマンでの学習指導を行っている。また通常の学習支援活動以外にも、クリスマス会や大学見学、音楽鑑賞、卒所式などのイベント行事も実施し、「居場所」的視点も重視しながら、学習機会の補充、進学モチベーションの向上や、多様な将来モデル像の提供を目的に活動している。

### 〈獨創性・自主性〉

代表自身が地元門真市で生まれ育ち、進学に困難を抱えた中学時代の同級生から見聞きした深刻な経験（※後述）に基づいて、この事業を着想し自発的に2018年10月（当時、大阪府立大学4年時）に活動を立ち上げた。子どもの貧困が社会問題化しつつあるなかで、先進的な自治体では中学生向けの学習支援を創設し始めていたが、地元門真市では未設置であったため、行政主導ではなく大学生ボランティア主導で、この事業を立ち上げ、全16大学から38名の大学生による自主運営を実現した（詳細：図1活動概要）。大学生が主導する獨創的な意義は次の3点：①進学率が低い地域の中学生にとってのロールモデル、②ボランティア活動を支援する大学リソース

の活用、③教員や福祉行政職をめざす学生自身のキャリア形成であると考え。

### 〈活動の目的・意義〉

地元門真市の深刻な子どもたちの状況にもかかわらず、生活困窮者自立支援法の任意事業である子どもの学習支援が実施されていない現



図1: 活動概要



大学見学の様子 (@大阪府立大学)

状と課題を踏まえ、経済的理由等で塾に通えない中学生を対象に事業を実施。

○ロールモデル像の提供（門真市は市内に大学もなく、地域に大学へ進学している人も少ない、生徒たちが多様な価値観や選択肢と出会える場を創ろう）

○第3の居場所提供（塾ではありません。大学見学やクリスマス会、遠足などのイベント行事を通して、生徒たちがホッとできる場所を創ろう）

○学習の場（学習指導）提供（大学生から教えてもらい、「どうせ無理」と思っている生徒たちがやればできるということに気づける場を創ろう）



クリスマス会の様子

大きく三つの柱を掲げ、4年間で延べ2500名の生徒に機会提供してきた。大学生ボランティアによる自主的な活動ではあるが、門真市の行政や団体・市民から評価され、卒所式では門真市長が来所、教育委員会や中学校とも生徒募集等での連携・後援体制を築いている。

〈ニーズへの対応・生徒たちの変化〉

生徒募集時に生徒の学習環境や家庭の経済状況等をヒアリングし、塾に通いたくても通えない、学校の勉強についていけない、学力保障ニーズの高い生徒を受け入れている（令和4年度55名応募で31名を選定）。

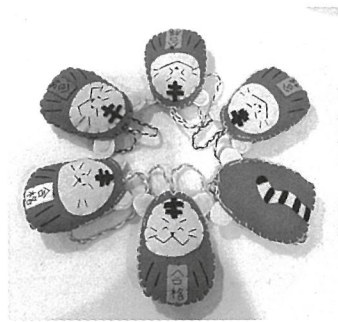


卒所式集合写真

学習面での変化としては、大学生ボランティアによるマンツーマンの学習指導の成果もあり、令和3年度は、参加した中学生の約75%が「成績が上がった」と回答。また、中3生全員（17名）が希望する公立高校に合格することができた。

学習面以外の変化では、「社会貢献への気持ち」や「将来の夢」について活動当初・中期・終盤で調査をしたところ、活動を重ねるにつ

れて、割合が大きく増えた。非認知能力においても大きな変化がみられ、当活動が生徒たちのキャリア教育の場となっていること、ロールモデルである大学生ボランティアの存在が重要であることが明確となった。



大学生ボランティア手作りの合格御守り

#### 〈活動の継続性〉

代表自身が大学4年時に立ち上げた活動ではあるが、現在は社会人（大阪府庁福祉部所属）であるため、現場の運営や企画については大学生ボランティアが中心となって担っている。そのため、学年を超えた数名の大学生を運営メンバーとして意識的に配置し、学生による主体的な運営力を継承している。

また、毎年度各大学のボランティアセンターとも連携して新規ボランティアを確保し、いずれは卒所生が大学生になって運営を担っていく将来像を持っている。当団体は行政からの資金援助は受けておらず、クラウドファンディングや各種助成金により活動資金

を確保している。支援の安定化と波及力の向上のため、公式HPやSNSを毎週更新、月1回「通信」を発行するなど、活動の見える化を図っている。

#### ※立ち上げに至った経緯について

私自身も門真市で生まれ育ち、人生を変えてくれた恩師と出会い、野球とも巡り合えた、今でも大好きな町。高校に入学をして初めて門真から外に出て、門真に対する世間の評価や教育環境の不十分さを実感した。

さらに「貧困」を感じる大きなきっかけとなったのが、高校へ進学できなかった中学3年時のクラスメイト2人の存在である。傷害事件を起こして鑑別所に入ってしまった友人、建設の仕事をしている最中に事故で亡くなった友人。彼らのことを想うと「悲しい」という言葉では片付けられなかった。生まれた地域や家庭によって差が生まれるような社会はおかしいと考え、大学に入学し、経済的理由で塾に通えない生徒や居場所を求めている生徒のために取り組んでいる「学習支援事業」の存在を知った。自身でも1回生の頃から大阪市東淀川区での学習支援活動に参加するなど、経験を重ね、行政にも働きかけ、協力を求め、大学4年時にKADOMA中学生勉強会を創設した。

（KADOMA中学生勉強会代表 八上真也）